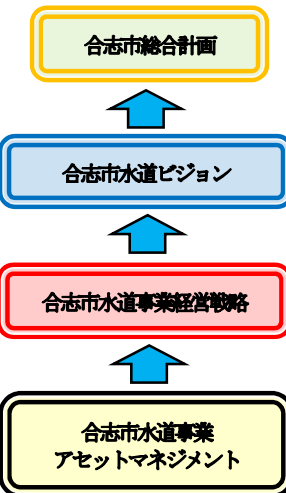


合志市水道事業経営戦略【概要版】

2025 年(令和 7 年)3 月 合志市水道局水道課

経営戦略の位置付け



本経営戦略は、本市の最上位計画である『合志市総合計画』と安全・強靱・持続についての施策を取りまとめた『合志市水道ビジョン Ver2』を下支えする計画のひとつとなります。『合志市水道事業アセットマネジメント』を包括的に取りまとめ、水道事業会計の財政計画と照らし合わせながら、施設の老朽化等に対応した具体的な取り組みを実践します。

経営の基本理念と3つの基本方針

本経営戦略策定にあたり、本市の総合計画における「水の安定供給」を実現できるための経営の基本理念と3つの基本方針を下記のとおりとします。

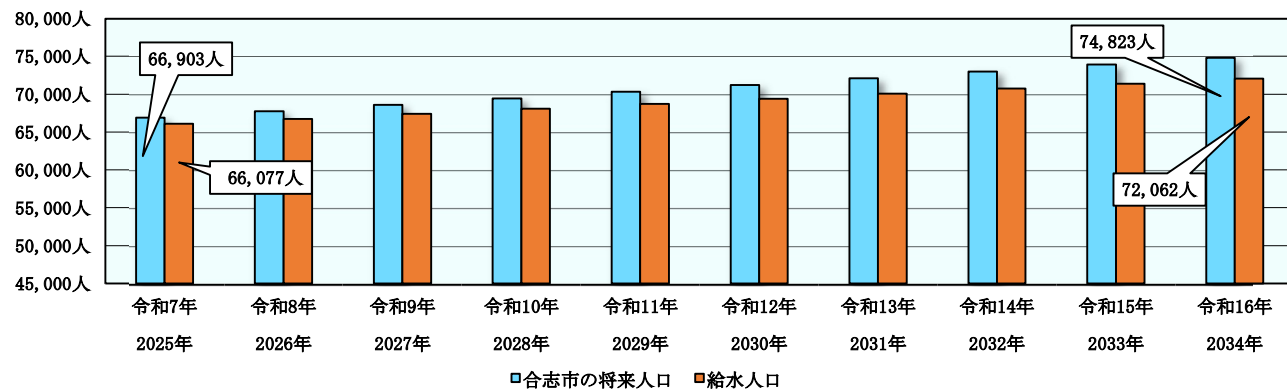
【基本理念】

経営環境の変化に適切に対応し、知恵と工夫により業務の改善を図り、市民に安全で快適な水道サービスを持続的・安定的に提供します。

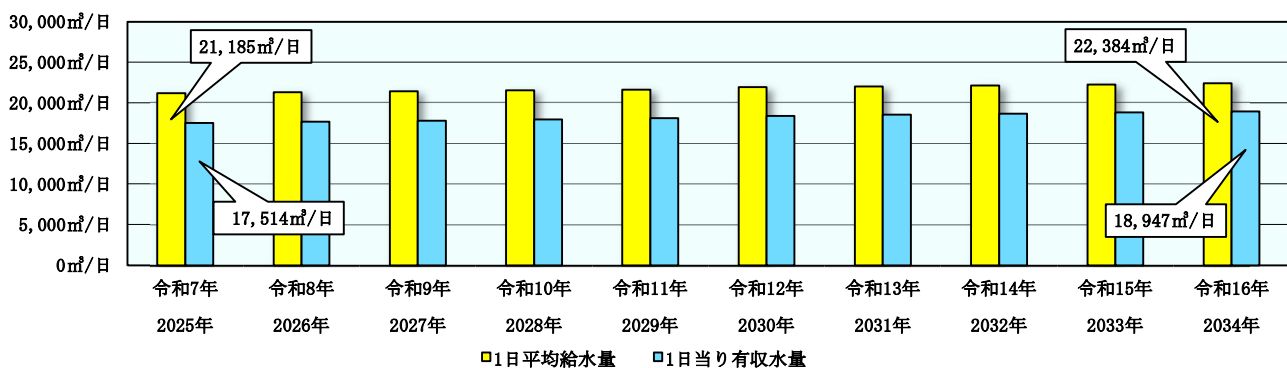
【3つの基本方針】

- (1) 健全経営の持続に努めます。
- (2) 計画的な施設更新を行います。
- (3) 危機管理体制の強化に努めます。

合志市の将来の人口及び給水量の見通し



合志市の将来人口、給水人口の推移



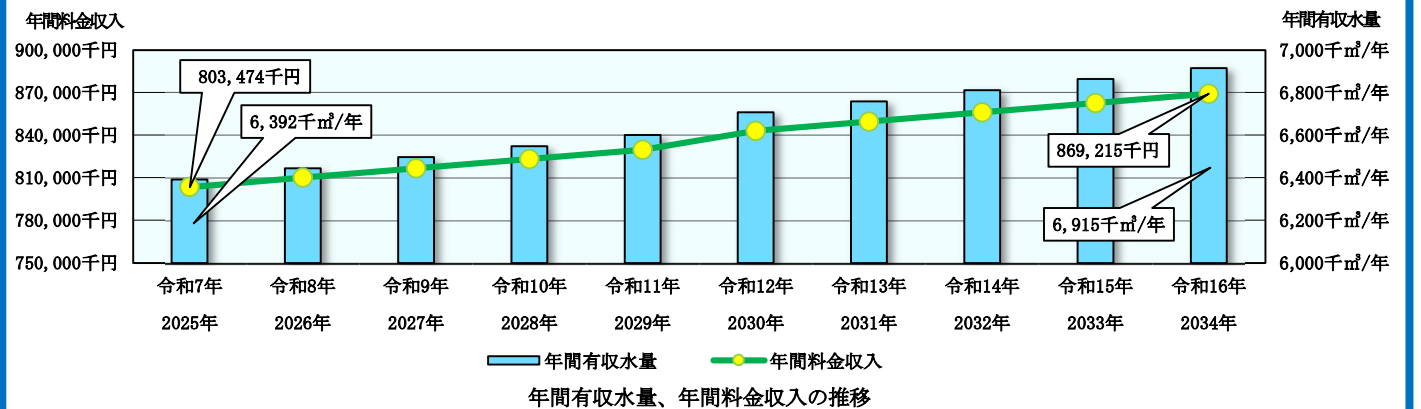
給水量、有収水量の推移

合志市の人口は、令和16年度末時点で約74,800人に達する見込みとなっており、その後も上昇傾向が予想されます。給水人口についても、将来の予測では今後10年間で約6,000人、年間約600人以上が増加する見込みとなっています。

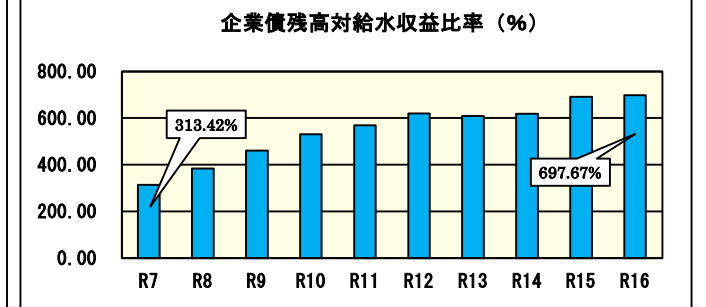
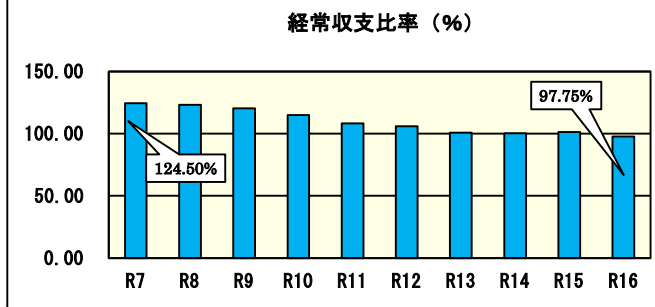
給水人口の増加に伴い、令和7年度は1日平均給水量21,185㎡/日で、10年後の令和16年度では、1日平均給水量は22,384㎡/日程度まで増加する見込みです。同様に令和7年度の1日当り有収水量は17,514㎡/日で、10年後の令和16年度には18,947㎡/日に増加する見込みです。

有収水量の増加は、給水収益の増加につながり、水道事業の経営に良い影響を与えますが、給水量の増加を考慮した水道施設の整備や投資を行う必要があります。なお、毎年管路更新工事を行うことで、有収率の向上を図ります。

年間有収水量、年間料金収入の推移



年間有収水量、年間料金収入の推移



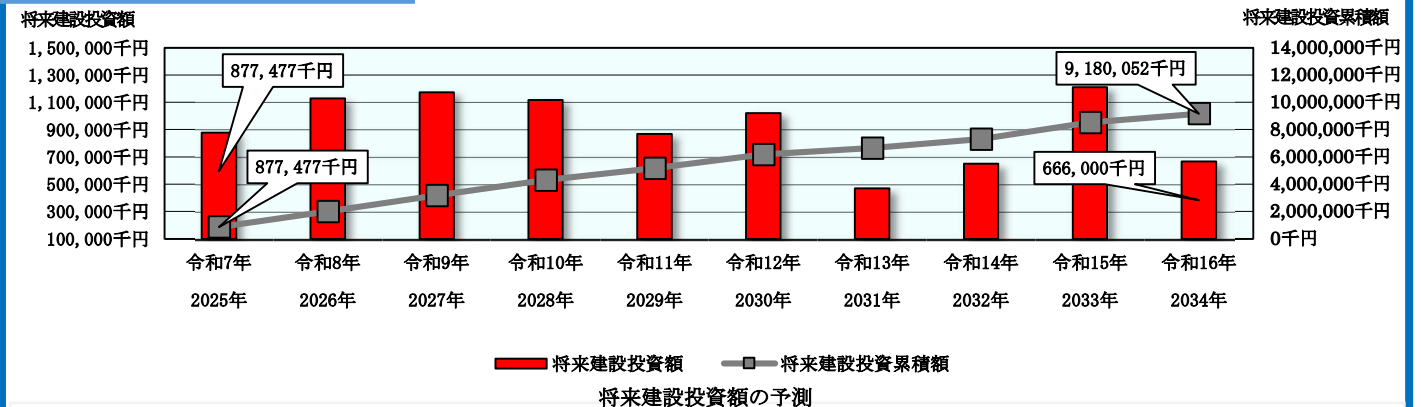
将来の人口増加に伴い、有収水量及び料金収入についても増加傾向が見込まれます。年間の有収水量の推移については、今後10年間で約520千㎡増える見込みです。料金収入についても有収水量と同様に増加傾向が見込まれ、同期間で約65,700千円の増収が予想されます。

経営の健全性を示す指標となる「経常収支比率」の将来推移では、料金収入は増加しますが更新事業費用の増加に伴い、減価償却費及び支払利息の増加、また人口増加による給水量の増加に伴う動力費の増加により、経常収支比率は減少していき令和16年度には100%を割り込むことが予想されます。

また「企業債残高対給水収益比率」については、更新事業費用の増加に伴い企業債発行額が増加し、企業債残高も増加する見込みです。

※ 近年の物価や地価などの高騰が著しいことから、人口の推移がこのまま増加するか不透明です。人口の伸びが本計画を下回れば料金収入も予測より減少し、将来の維持管理や施設更新に要する費用への財源不足が懸念されます。今後の社会情勢に注視しつつ、水道料金を改定するなど収支バランスの安定を図る必要があります。

将来の必要となる建設投資額



将来建設投資額の予測

将来の人口増加が見込まれる中で、既存施設の増強や耐震化更新についての建設投資が必要となります。

新たな給水区域広域などの新規整備事業の計画はありませんが、施設の老朽化が進むことが予想され、施設の健全性及び耐震性の確保が重要となります。また人口増加に伴い給水量が増加することから施設の増強も必要となり、今後10年間で約92億円の建設投資を見込んでいます。

これらの建設投資を行うことにより、施設の健全性は向上していき、安全な水を安定的に供給することが可能となり、災害時においても耐える施設の構築が可能となります。